

# 旨い果菜の里づくりプラン

～守り、育て、受け継ぐ～



わしが生まれ育った日南町  
清き水と人情で育てた果菜をとくと味わってくれ



日南町公式キャラクター  
“オッサンショウオ”

平成 26 年 11 月 20 日 作成

日南町

(目 次)

1. プラン策定にあたって
2. 日南町の現状
  - (1) 日南町の地理と気候
  - (2) 日南町の人口と高齢化率
  - (3) 日南町の農業の歴史
  - (4) 作付面積及び販売額の状況
3. トマトとピーマンの生産振興を図っていく上での課題
  - (1) 担い手と生産者の確保についての共通課題
  - (2) 農地確保の共通課題
  - (3) 農作業負担についての共通課題
  - (4) 販売力に係る共通課題
  - (5) 気象条件に対する共通課題
  - (6) トマトについての課題
  - (7) ピーマンについての課題
4. 本プランの取組
  - (1) 担い手の確保のための取組
  - (2) 農地利用と効率化のための取組
  - (3) 生産振興のための取組
  - (4) 販売促進のための取組
5. 生産者が期待する支援と他事業で対応予定のもの
6. プランの実施体制
7. 具体的な目標値
8. 事業一覧

## 1 プラン策定にあたって

近年本町では過疎化、高齢化の進行が著しく水稲や野菜の栽培面積の減少が顕著に現れてきました。1億円特産として定着してきたトマト、軽量・高単価で栽培面積を増やしてきたピーマンも例外ではなく、様々な課題があり農業をとりまく環境は大変厳しく、産地としての存続が危ぶまれています。農家戸数と栽培面積の減少を食い止め、人工的に作れない財産である野菜栽培に適した冷涼な気象条件と先代からの農地や技術を受け継ぎ、この里を守っていかねなければなりません。

本プランは日南町の野菜主要4品目であるトマト、ピーマン、白ねぎ、ブロッコリーのうち、トマトとピーマンの総合的な生産振興計画を示すものです。

5年後の目標を定め、達成に向かって以下4つの取組を軸とします。

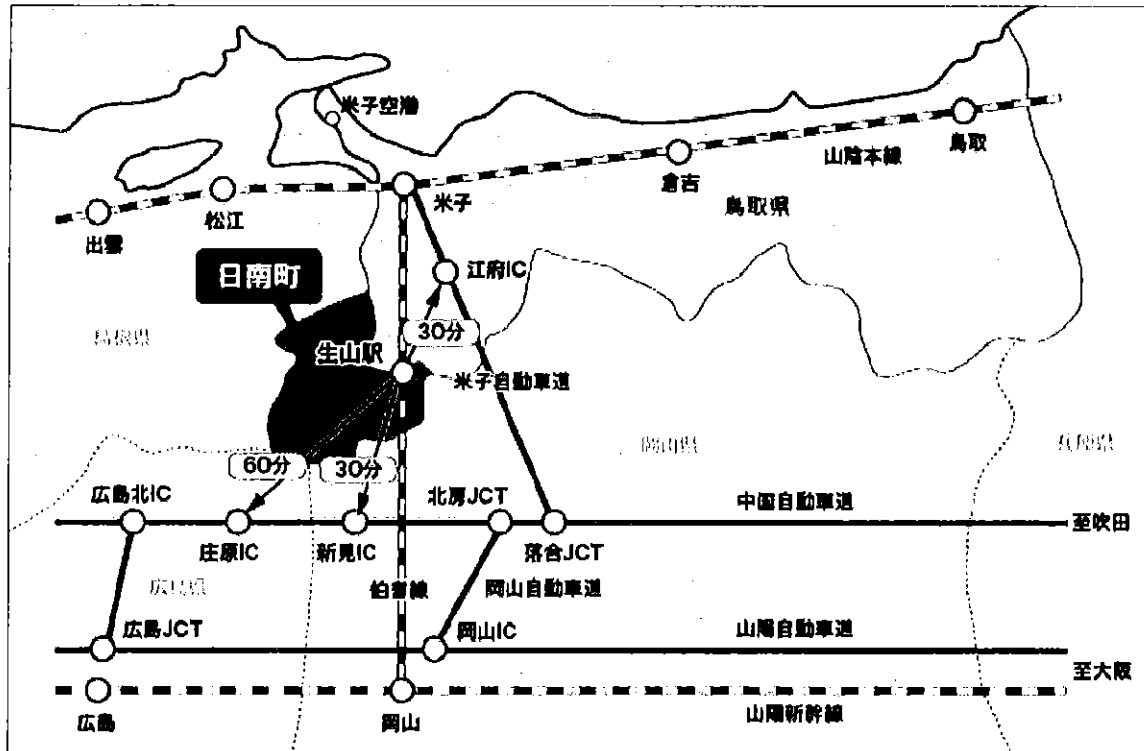
- 担い手の確保のための取組
- 農地利用効率化のための取組
- 生産振興のための取組
- 販売促進のための取組

これらの4つの取組で、農地や技術などの野菜生産環境を整え、販促をしてうまい野菜を作りたい人、食べたい人が集まる里を目指します。

## 2 日南町の現状

### (1) 日南町の地理と気候

日南町は中国山地のほぼ中央で、西は島根、南は岡山、南西部は広島と3県に接し、山陰と山陽を結ぶ交通の要路となっています。

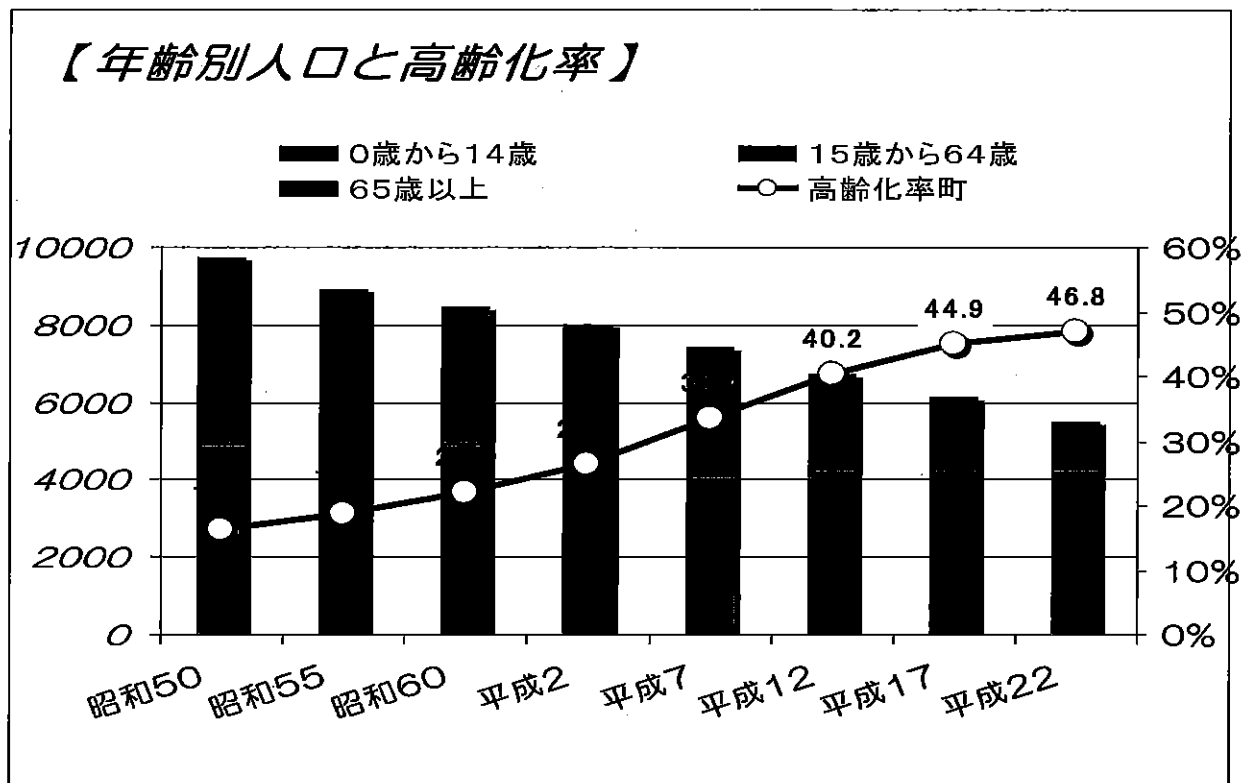


面積は東西に25 km、南北に23 kmという広がりを持ち、総面積は340.87 km<sup>2</sup>で鳥取県面積の1/10程度を占めます。平均気温は標高490 mの地区で約11℃、降水量は年約2,000 mmで、冷涼多雨な気候です。降雪期間は12月から3月で、多い地区では1.0 m～1.5 mの積雪があります。

## (2) 日南町の人口と高齢化率

戦後の昭和22～24年はベビーブームにより人口が増加し、昭和25年は1万6千人を超えましたが、その後は減少を続け、出生数が減ったためと、若者の都市への流出が進み老人世帯が多くなりました。

平成26年の総人口は5,264人(平成26年9月末)で、高齢化率(65歳以上)は45%を超えています。若年人口である14歳以下は約400人で人口に占める割合は7.3%です。農業を支える世代である生産年齢構成比率は46%です。



(国勢調査資料)

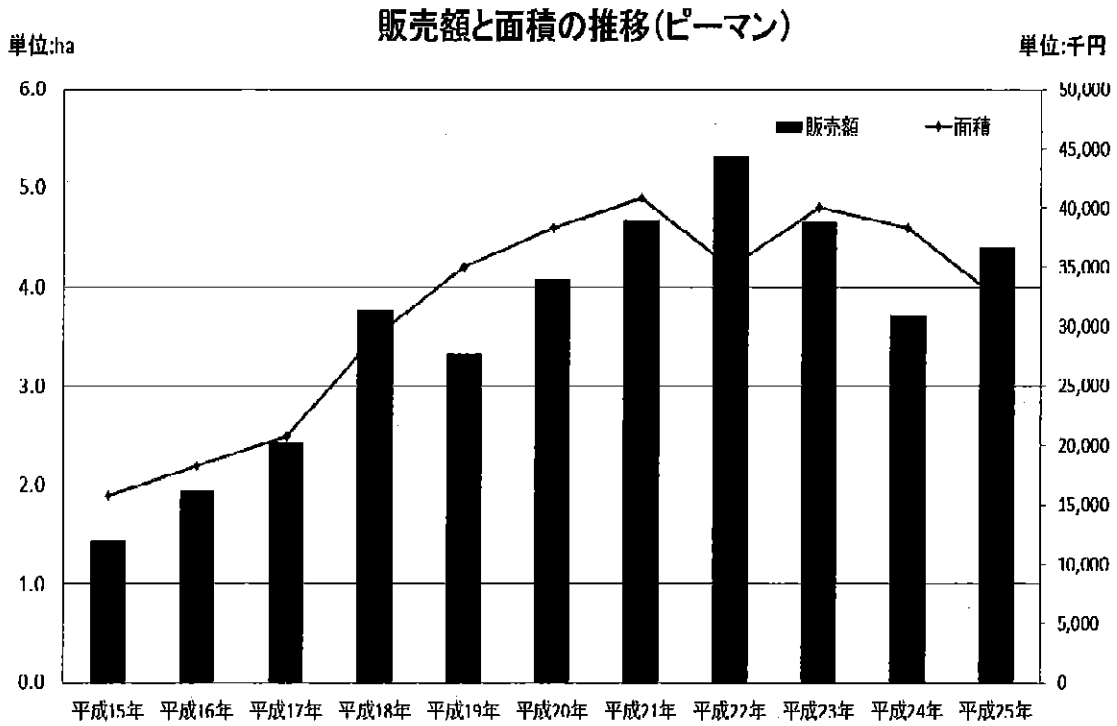
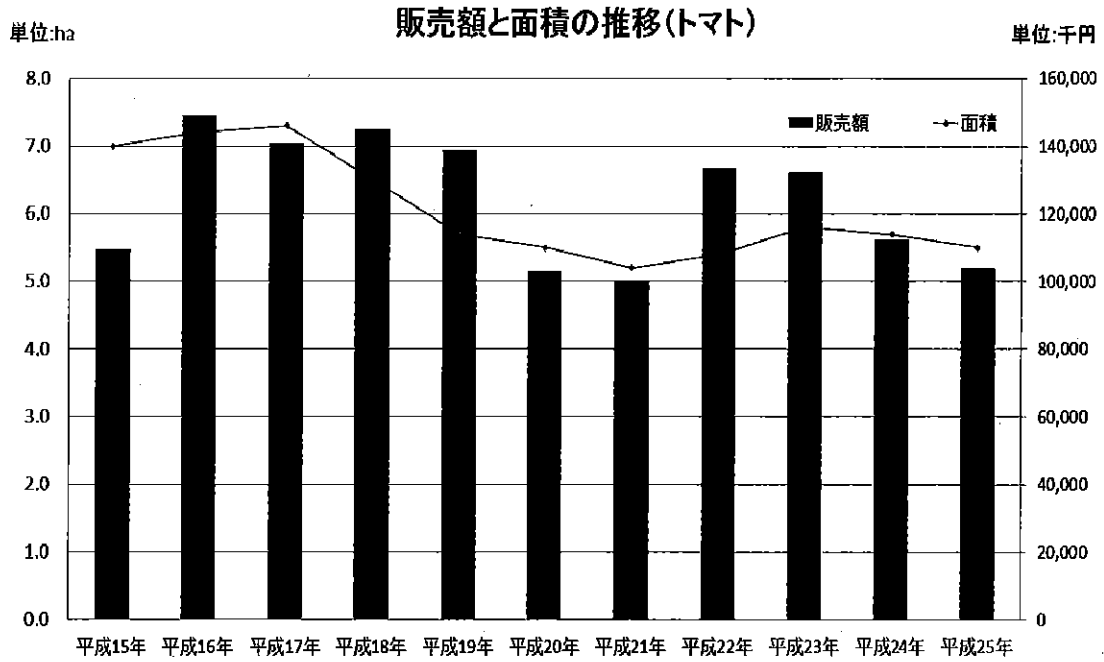
## (3) 日南町の農業の歴史

通年での営農が積雪により困難であるため、古くから水稲と畜産を主としています。他地域では地球温暖化により米の品質低下が騒がれる中、本町は良質米の産地として知られ、95.4%(H26年度農協データより。鳥取西部平均48.0%)と高い一等米比率を誇り、毎年日野郡内で開催される米のおいしさを競う「日野郡源流米コンテスト」では上位入賞者を多数輩出しています。

本格的な野菜生産は米の生産調整の一環として始まりました。昭和46年より取り組んだトマト栽培は収益率の高さから年々栽培面積、生産者数の伸びを見せ、平成11年には1億8929万円の販売金額を記録しました。

また、平成5年からは女性・高齢者向けの軽量作物としてトマト・白ねぎに続く第3の品目としてピーマンの栽培が始まり、冷涼な気象条件を活かして栽培面積と販売額を増やしていきました。

(4) 作付面積及び販売額の状況



( J A 鳥取西部資料 )

### 3 トマトとピーマンの生産振興を図っていく上での課題

#### (1) 担い手と生産者の確保についての共通課題

本町のトマトとピーマン生産については、高齢化などによる生産者数の減少や労働力の低下など全体的な課題や、それぞれの品目に対しての課題を抱えています。

平成21年度より取り組んでいる農林業研修生制度によって新規就農者を育成、確保しているのですが、二品目とも生産者数の増加には至っていません。農家の高齢化や後継者不足等による離農に歯止めがかかっていないのが現状です。

農業研修生について（単位：人）

研修生採用年度	採用人数	就農年度	就農先	
			自営就農	法人就農
平成21年度	8	平成23年度	6	1
平成22年度	4	平成24年度	1	0
平成23年度	1	—	0	0
平成24年度	3	平成26年度	1	2
平成25年度	2	(研修中)	—	—
平成26年度	3	(研修中)	—	—

生産者数の推移 ※（）内は研修修了生の数

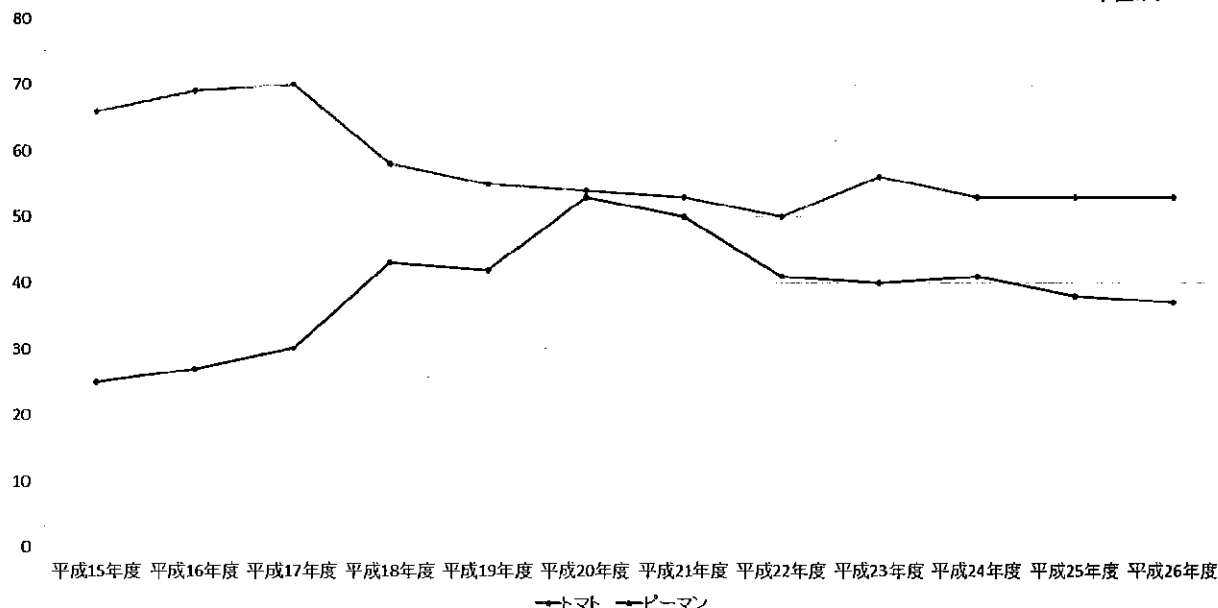
(単位：人)

	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
トマト	66	69	70	59	55	54	53	51	56(4)	53(1)	53(0)	53(1)
ピーマン	25	27	30	43	42	53	50	41	40	41	38	37

※ピーマンの研修修了生の就農は農業法人就農で確保しています。

トマト・ピーマン生産者数の推移

単位：人



## (2) 農地確保の共通課題

野菜栽培用農地の確保については、大型機械による水稲栽培が優先されるため、条件の良い農地の確保も課題となっています。また、研修生においては居住地と耕作地の距離が離れてしまい就農・通作で苦勞をするケースや、研修農地と実際に就農する農地が変わり、負担がかかることがあります。面積の広い日南町では農地によって気温や標高差、土質が大きく違うことがあり、栽培環境が大きく変わってしまうためです。

## (3) 農作業負担についての共通課題

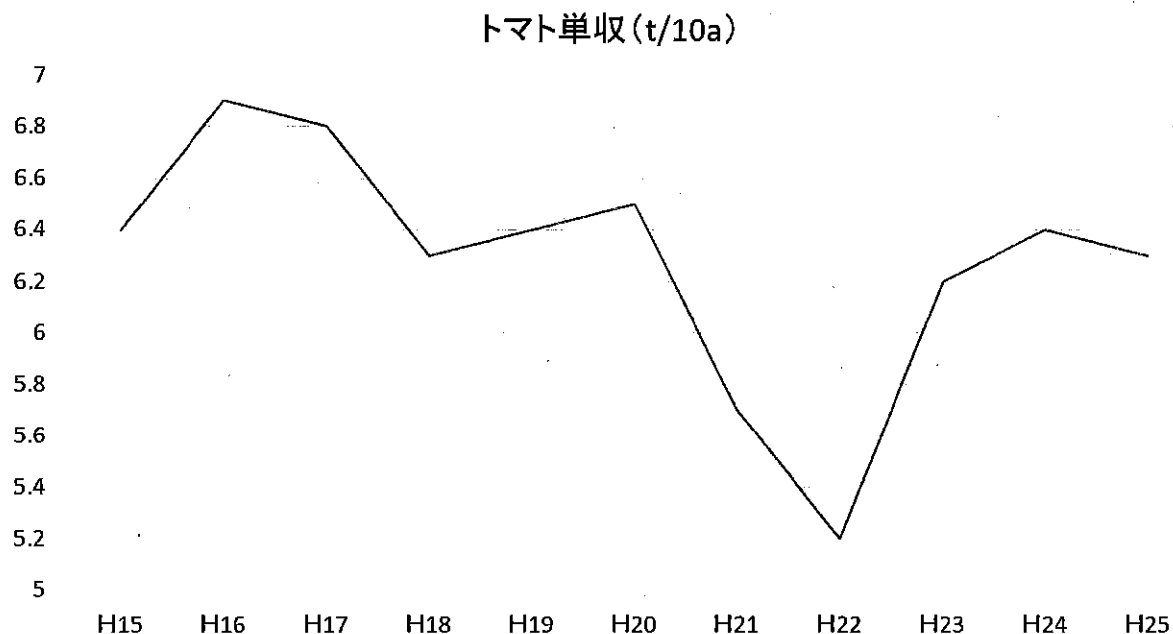
農家の高齢化による重労働な作業の限界が来ています。特に土づくりに必要な堆肥の散布やうね立てなどは重労働であり、作業を行うことが難しくなっています。

## (4) 販売力に係る共通課題

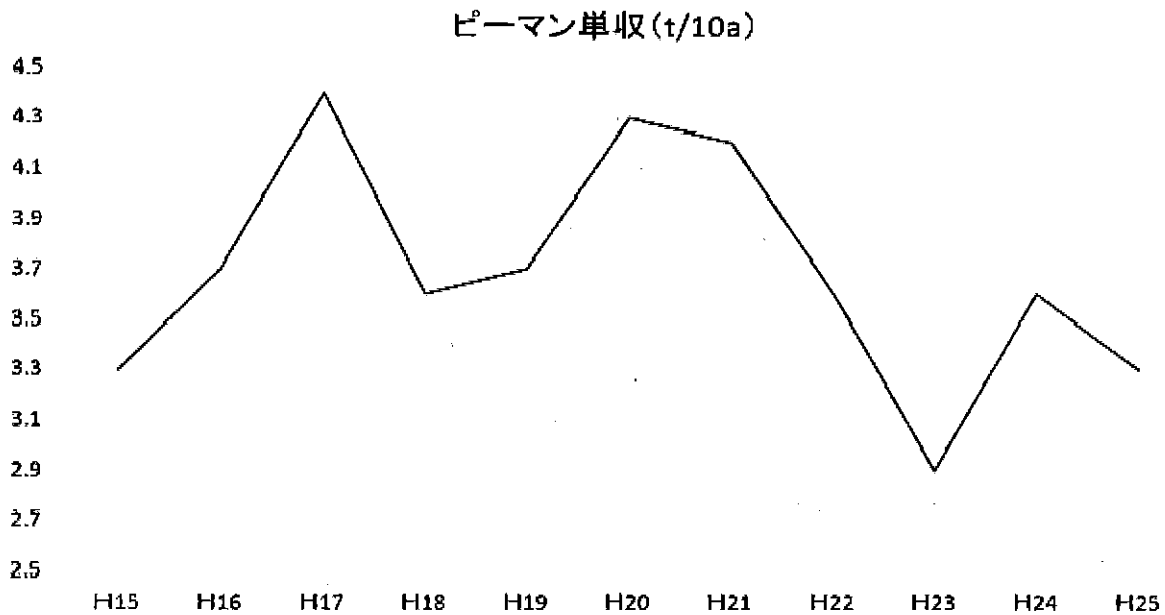
本格的な野菜の栽培は40年以上の長い歴史があり、本町では「にちなん食のバザール」などの販売促進イベントを開催していますが、県外においては本町野菜の知名度は低いです。町内の既存商店は廃業が進んでおりショッピングセンターは本町では1店舗しかなく、新鮮な町内産の野菜が買える店は町内にはわずかしきありません。この販売力の弱さも本町の抱える課題です。

## (5) 気象条件に対する共通課題

単収はトマト、ピーマン共に安定していません。耕作農地は長年の連作によって土壌病害が発生しており、降水量や気温などの要因によって品質にばらつきが出ている状態です。近年はゲリラ豪雨や日照不足、高温過乾燥などの異常気象も多く、規格品が減少し、生産農家の経営を圧迫しています。







( J A 鳥取西部資料 )

	平成 2 1 年	平成 2 2 年	平成 2 3 年	平成 2 4 年	平成 2 5 年
トマト秀品率	24.9%	32.6%	33.7%	22.7%	37.2%
ピーマン秀品率	73.2%	77.9%	76.8%	76.8%	66.8%

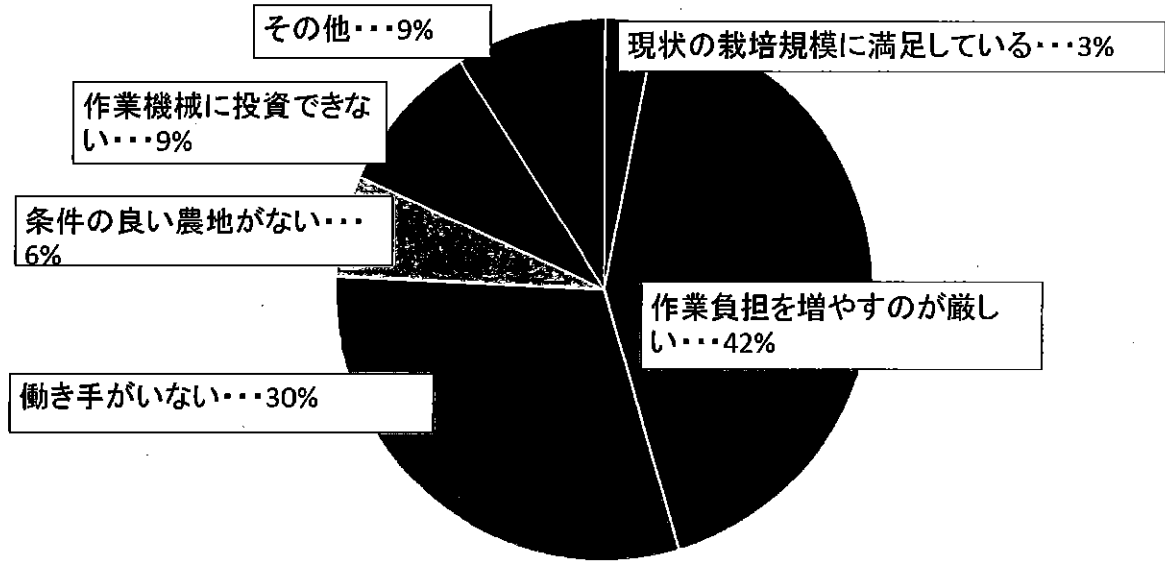
( J A 鳥取西部資料 )

#### (6) トマトについての課題

町内トマト農家に規模拡大ができない理由についてアンケートを実施したところ、「現状の栽培規模に満足している」と答えた農家は全体の3%であり多くの農家は現在の栽培面積に満足していないことが伺えます。さらに「作業負担を増やすのが厳しいから」と答えた農家が42%と最も多く、次いで「働き手がないから」と答えた農家が全体の30%と続き、労働力不足が全体の72%を占めています。これらの課題解消に向けた取組が急がれます。

また、一般的な240m<sup>2</sup>（間口6m×長さ40m）のハウス資材一式を揃える費用はこの数年間で約50万円高騰したデータもあり、更新や規模拡大に踏み切ることができず、老朽化したハウスの倒壊による面積の減少や増反意欲の低下に繋がっており、深刻な課題となっています。

規模拡大ができない理由は？



(7) ピーマンについての課題

ピーマン生産に必要な農業用水が確保できている耕作地は僅かであり、雨量が少なく、多乾燥の時には影響を大きく受けてしまい、単収の低下につながっています。また、選果についてはほとんどの農家が手作業で行っており、収穫すればするほど選果作業に時間がかかる状況で規模拡大を妨げています。

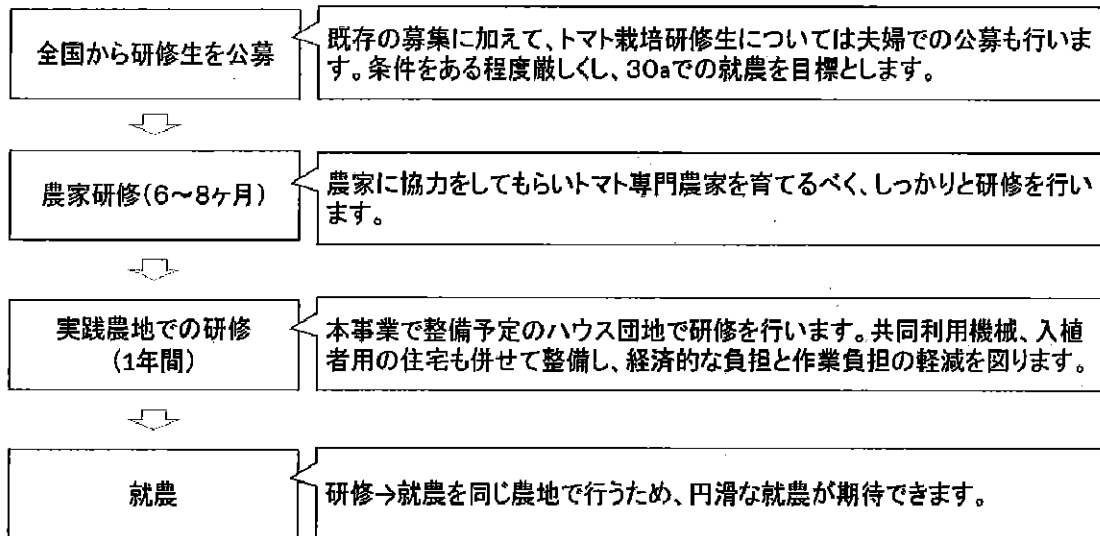
4 本プランの取組

これらの課題に対して、本プランで以下の解決策を打ち出します。

	課 題	本プランでの解決策
2品目共通	担い手と生産者の確保	研修生制度の見直しと継続実施、入植者の募集
	条件の良い農地の不足	ハウス団地の整備
	重労働な作業の限界	堆肥散布機導入、堆肥利用助成、管理機の導入支援
	販売力と知名度不足	直売所整備、販売促進活動
	異常気象や土壌病害の発生	新品種の実証圃設置・品種転換・導入支援
トマト	単収が不安定	養液土耕システムの導入
	ハウス資材の高騰	リースハウス整備、ハウス補強の補助
ピーマン	農業用水の不足	灌水施設導入
	選果作業の負担	簡易選果機の導入

### (1) 担い手の確保のための取組

トマト栽培面積拡大の為、ハウス団地を整備して就農初期の負担軽減を図り、入植者を全国から募集します。また、農林業研修生制度は継続して実施し、担い手を確保します。既存の研修生の受け入れ体制に加え、家族経営の推進をして、家族や夫婦での研修・就農モデルを確立していきます。特にトマトについては夫婦で30a以上の栽培面積での経営を目指し、専門的な農家を育てるべく1年間の農家研修で技術を受け継ぎ、ハウス団地を実践農場として研修をしてそのままリスクのない就農という流れをつくります。



### (2) 農地利用と効率化のための取組

トマトハウス団地（用地面積 2ha）を整備し、また、JA主体によるリースハウスの整備を行い、規模拡大の際の負担を減らします。

老朽化したハウスについては補強を行う農家に対する補助を行い、台風などの天災への対策を行います。

### (3) 生産振興のための取組

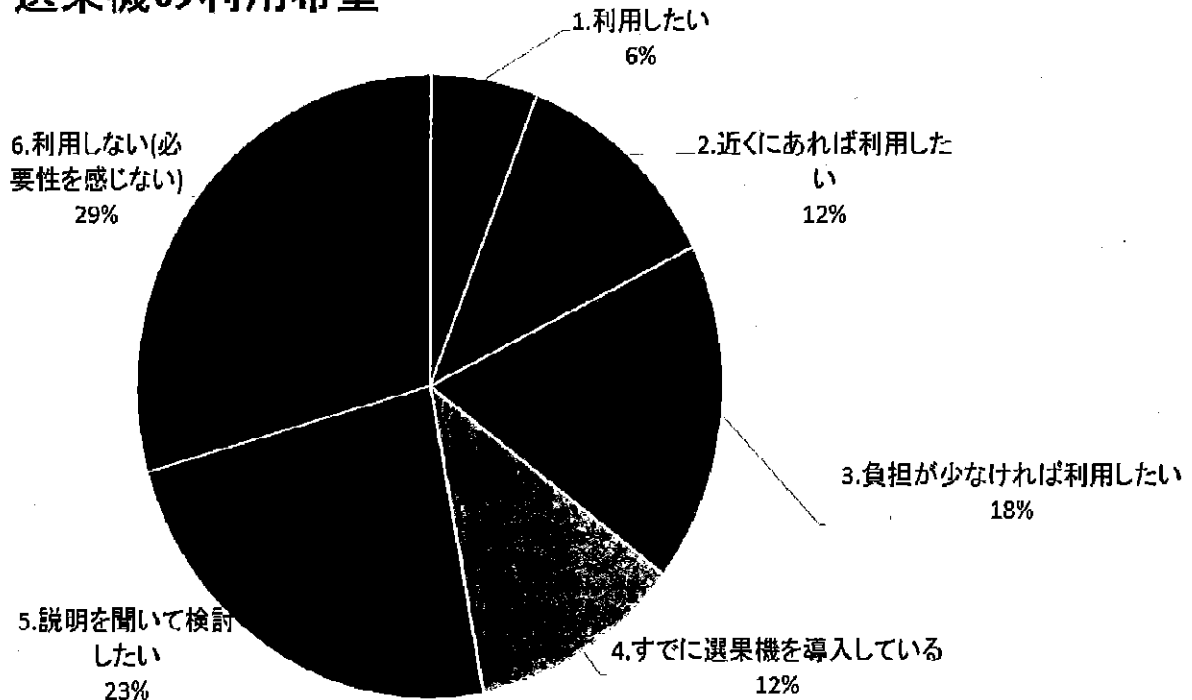
安全・安心、環境・人に優しく作物にもやさしい、日南町「ゆうきまんまん構想」を推進します。その上で野菜生産の重要なポイントである有機質多投・減農薬・健康な土づくりへの支援をするため、マニアスプレッダー（堆肥散布機）の導入と堆肥の利用に対する助成を行います。

また、中山間地の環境に適合し、異常気象や土壌病害に強い品種への移行や、作業負担軽減と収量品質向上のための新品種・新技術の実証圃の設置と導入支援を行います。

トマトについては養液土耕システムの導入をし、施肥・灌水にかかる作業時間の大幅な削減を図ります。

ピーマン生産農家へは、灌水設備と共同利用の簡易選果機導入を支援します。特に簡易選果機導入については全体の約7割が導入に対して前向きであり、早急な整備の必要があります。手作業の選果ではおよそ1時間に800個のペースの選果ですが、選果機導入で1時間におよそ10,800個のペースで選果することが可能になり大幅な効率化を図ります。

## 選果機の利用希望



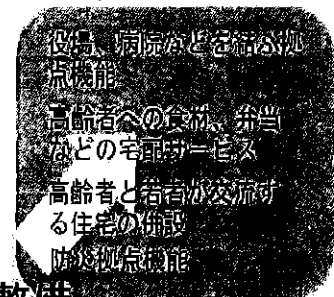
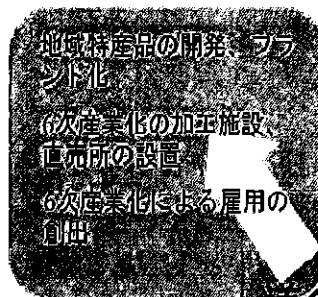
### (4) 販売促進のための取組

味で勝負のできるとれたての旬の味を届けるため、直売所の整備を行います。この直売所は本町が現在計画中である道の駅構想の一角として、本事業で取組み、販売力の弱さを解消します。

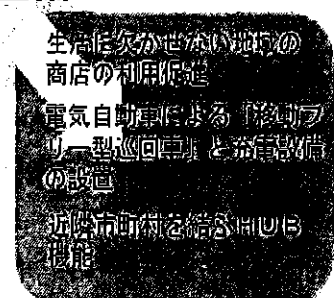
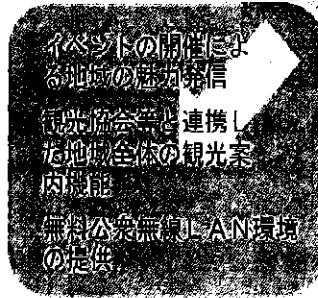
## 「創造的過疎」への取組

- ・ 集客交流や地場産業の振興のための魅力を生かした拠点づくり
- ・ 地域福祉に配慮したサービスの供給施設整備
- ・ 自衛隊、警察、消防等の後方支援部隊が参集する後方支援拠点機能
- ・ オリジナルキャラクターやご当地アイドルによるまちの魅力発信

先駆的なモデルとして  
「道の駅」による地方創生  
拠点形成を目指す！



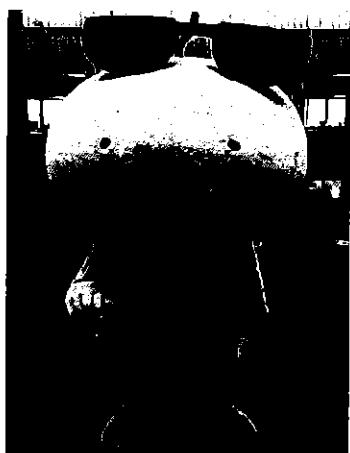
### 道の駅整備



(道の駅構想)

また、生産者の町内外へのPR活動に対しての支援を行います。生産者の情報発信や、消費者との交流イベント、マスコットキャラクターとキャッチフレーズの活用での認知度向上、「日南トマト」の地域団体商標取得により、ブランド力向上を目指します。これらの取組で日南町産野菜のファンの獲得を目指します。

## 人がすき 日南がすき トマトだいすき！



(オッサンショウオ)



(にちなんトマトン)

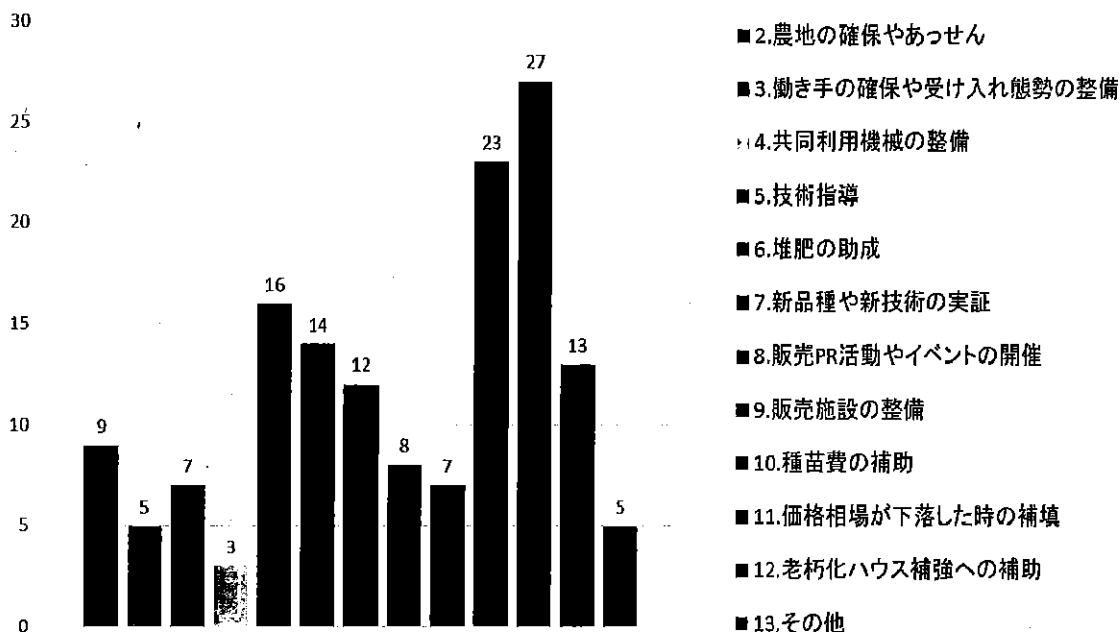


(Mr. P)

## 5 生産者が期待する支援と他事業で対応予定のもの

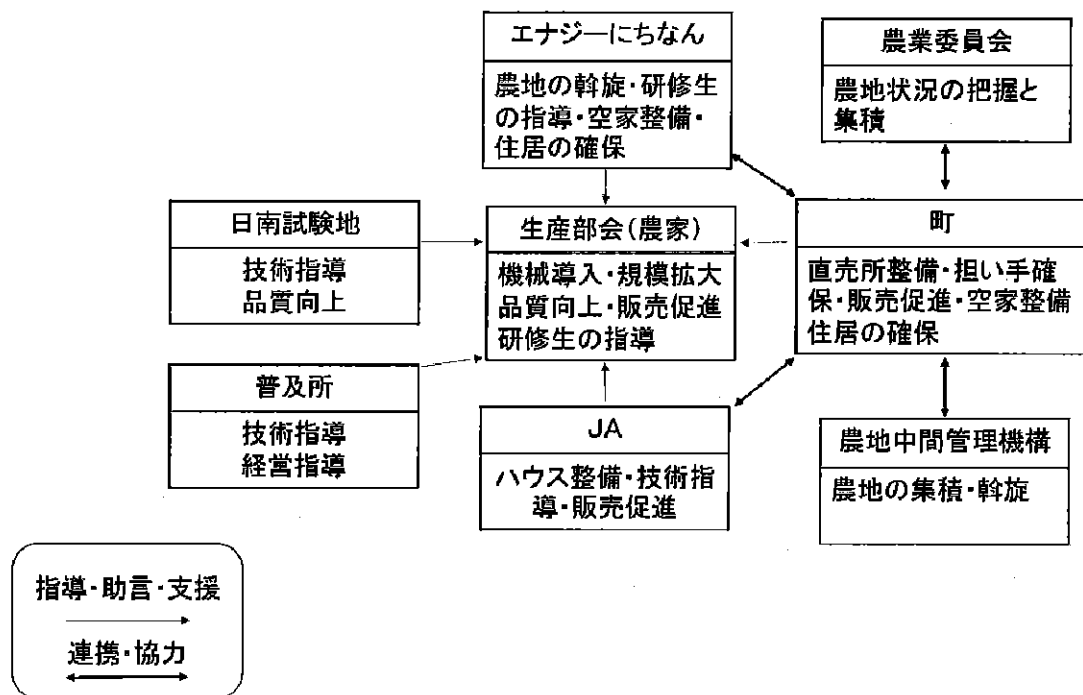
生産者に今後期待する支援についてアンケートを実施した結果、以下のような結果が得られました。これらの要望に対しきめ細かい支援を実現するべく、本事業以外での支援項目は他事業での対応も想定しています。

### 今後どういった支援を期待しますか？

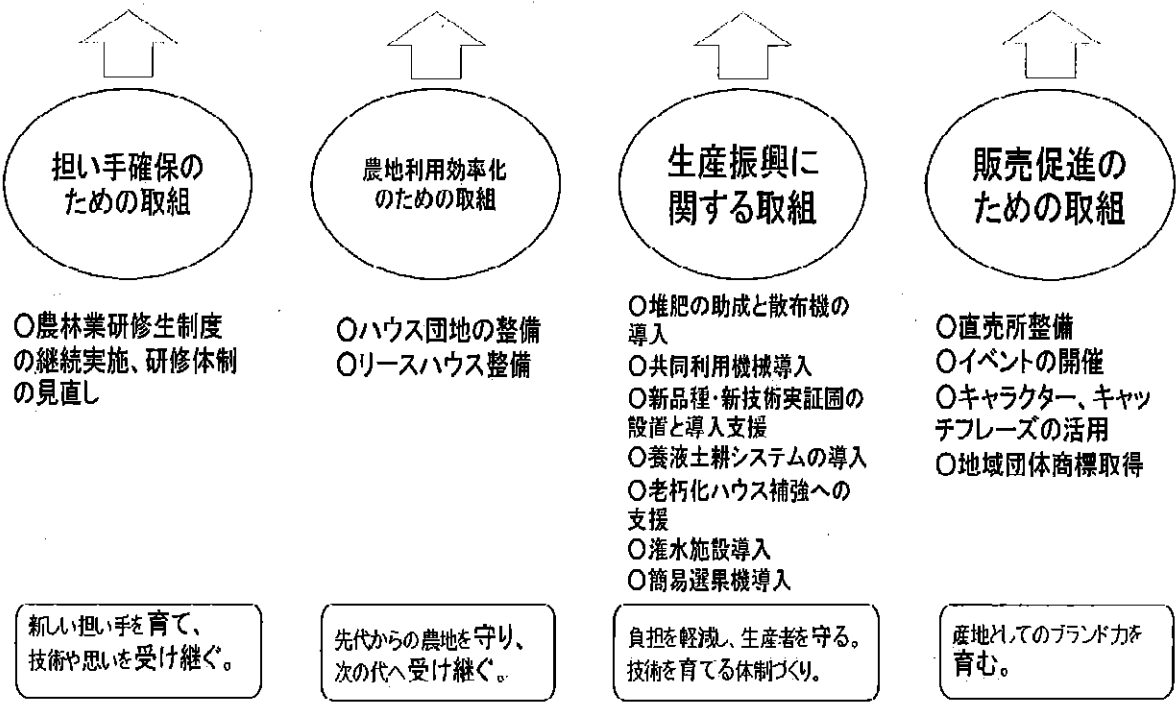


項目	対応予定事業	平成25年度決算額(千円)	事業の概要、備考
機械の導入補助	がんばる農家プラン事業	37,428	農業者の機械や設備導入への助成
	意欲ある農業者支援事業	5,657	農機具等の導入費用の助成
	本事業	—	マルチ管理機、管理機導入支援
農地の確保やあっせん	農地中間管理事業	—	担い手への農地集積に対しての支援
	本事業	—	ハウス団地の整備
働き手の確保や受け入れ体制の整備	農業後継者育成対策事業	56,162	農林業研修生の確保・育成など
	青年結婚・Uターン促進事業	5,972	空き家の有効活用や婚活イベントの実施
共同利用機械の整備	本事業	—	H29年度より実施予定
堆肥の助成	本事業	—	堆肥助成、マニアスプレッダー導入
技術指導	一歩踏み出す6次産業化支援事業	628	加工技術に関する知識や技術の習得を支援
新品種や新技術の実証	本事業	—	H27年度より品種・新技術実証の取組
販売PR活動やイベントの開催	本事業	—	H27年度より販売促進活動実施
	にちなん食のバザール事業	3,172	「食のバザール」を実施して交流人口の増大を図る
販売施設の整備	本事業	—	平成27年度より直売所整備予定
	中心地整備、道の駅整備	—	これからの本町の拠点となる中心地を整備する
種苗費の補助	野菜等振興補助事業	—	野菜種苗費用の補助。平成28年度新規事業
価格相場が下落した時の補填	野菜価格差補給事業	354	野菜価格が著しく低落した際の影響を緩和する
老朽化ハウス補強への補助	本事業	—	H27年度より実施予定
その他	鳥獣被害対策事業	6,249	防護柵設置への補助など、鳥獣被害軽減を図る
	経営所得安定対策事業	10,189	農業経営の安定と生産力の確保
	中山間地域等直接支払推進事業	188,597	各集落の農地の保護などの活動を支援する
	農地・水保全管理支払交付金事業	12,770	地域共同による保全管理活動などを支援する

## 6 プランの実施体制



### 野菜を作りたい人・食べたい人が集まる、旨い果菜の里づくり



## 7 具体的な目標値

### トマト・ピーマン共通

項目	現状	目標
農林業研修生制度による新規就農 (トマト、ピーマンを主とした)	7人	17人
ハウス団地入植者数	0戸	5戸
ハウス団地用地面積	0ha	2.0ha
リースハウス用地面積	0ha	3.0ha
直売所年間来場人数	0人	9万人

### トマト

項目	現状	目標
作付面積増加	5.7ha	7.7ha
単収向上	6.3t/10a	7.5t/10a
地域団体商標取得	0	1

### ピーマン

項目	現状	目標
作付面積増加	4.0ha	6.0ha
単収向上	3.3t/10a	4.5t/10a

## 8. 事業一覧

(単位：千円)

ソフト/ハード	実施主体	内容	支援事業					事業費計
			平成27年度 事業費	平成28年度 事業費	平成29年度 事業費	平成30年度 事業費	平成31年度 事業費	
ソフト	J A	ピーマン堆肥助成	450	450	450	450	450	2,250
	J A	トマト堆肥助成	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
	生産部会	品種・新技術実証	330	330	340	—	—	1,000
	生産部会	販売促進	500	250	250	250	250	1,500
ハード	町	直売施設整備	50,000	—	—	—	—	50,000
	J A	トマトハウス団地の形成	—	37,625	37,625	—	—	75,250
	生産部会	養液土耕システムの導入	6,000	8,800	2,200	4,400	4,400	25,800
	J A	共同利用機械整備	—	7,500	7,500	—	—	15,000
	J A	リースハウス整備	19,800	19,800	19,800	18,000	18,000	95,400
	生産部会	老朽化ハウスの補強	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
	生産部会	ピーマンかん水施設	1,500	1,500	1,000	1,000	1,000	6,000
	生産部会	マルチ管理機、管理機	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
	任意組織	ピーマン簡易選果機	—	1,500	1,500	1,500	—	4,500
	町	マニアブレグダー導入	7,600	—	—	—	—	7,600
合計			89,180	80,755	73,665	28,600	27,100	299,300